

### 目次

新任・転任者ご挨拶	1
看護部だより	
患者数	2
アラカルト「熱中症」	3・4
医療安全管理室「コンクリート・マシナリ」	4
重症心身障害病棟・夏まつり	5
職場紹介「リハビリテーション科」	
糖尿病教室お食事会のお知らせ	6
外来医師担当表	7

発行：独立行政法人 国立病院機構 甲府病院 広報委員会  
 発行責任者：長沼博文  
 住所：〒400-8533 山梨県甲府市天神町 11-35  
 電話：055-253-6131  
 ファックス：055-251-5597  
 ホームページ：<http://www.hosp.go.jp/~kofu-hospital/>  
 (新しいページへ移転しました)  
 Eメール：kofu@kofu.hosp.go.jp



### 「重症心身障害病棟・夏まつり」

去る7月23日、当院の重症心身障害病棟、およびグラウンドにおきまして、毎年恒例の夏まつりが行われました。今年には天候にも恵まれ、職員による縁日や演奏にダンス、地域の小学生による吹奏楽、患者さん手作りの神輿を囲んでの阿波踊り、さらには打ち上げ花火と、盛りだくさんの演目により、患者さん、地域の皆様、ボランティア、職員が一体となって、楽しい時間を過ごしました。(5ページに詳細あり)



独立行政法人 国立病院機構 **甲府病院** の理念  
 National Hospital Organization Kofu National Hospital

### 理念

私たちは、良質な医療の提供を通して、患者さんの健康を支え、地域社会に貢献します

### 基本方針

- 丁寧な説明に努めます
- 自己研鑽に励みます
- 職員同士協力し合います

私たち職員は、理念を実現するため最善を尽くします  
 病院は、職員の働きやすい環境を積極的に提供します

# 新 任 者 ・ 転 任 者 ご 挨拶



**庶務班長**  
**渡邊 恵一**  
(わたなべ けいいち)

平成 26 年 4 月 1 日付で国立病院機構高崎総合医療センターより管理課へ参りました渡邊と申します。この病院で 7 施設目の勤務となります。

甲府病院に来て先ず感じたのは、建物の造りがとても豪華で綺麗なこと、雄大な富士山がとてもよく見えることでした。庶務班の業務内容には、その他に属さない事項も含まれており、なんでも屋さんのなところもありますが、管理課のため、病院のために必要な職員になるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願ひ致します。



**専門職**  
**高梨 哲**  
(たかなし さとし)

平成 26 年 4 月 1 日付で甲府病院に転任して参りました高梨と申します。

前任地は厚生労働省医政局国立病院課で厚生労働省第二共済組合に関する業務に従事していました。

病院勤務は約 5 年ぶりとなること、また、今回の所掌である医事業務についてはこれまで全く経験がないことから、自分自身でも期待より不安のほうが多い状況ですが、精一杯頑張りたいと思いますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願ひ申し上げます。



**医化学主任**  
**木津谷 亮**  
(きつや あきら)

平成 26 年 4 月 1 日付で、神奈川県にある相模原病院より赴任してまいりました木津谷亮と申します。

甲府病院で 4 施設目の勤務となり、初めての地でまだまだ不慣れな事もありますが、迅速かつ正確な対応を心がけ、皆様が安心して検査を受けられるように努めたいと思います。

今後ともどうぞよろしくお願ひいたします。



**主任保育士**  
**片桐 有佳**  
(かたぎり ゆか)

平成 26 年 4 月 1 日付で、西新潟中央病院より赴任してまいりました、療育指導室の片桐と申します。初めて住む甲府では、富士山が見える環境に感激しています。

現在は通所支援事業ひまわりを中心に活動しています。利用者さん、患者さんが限られた環境の中でも楽しい時間が送れるように、発達支援を視野に入れて療育活動や保育、遊びの展開を行います。どうぞよろしくお願ひします。



**栄養士**  
**相原 潤子**  
(あいはら じゅんこ)

平成 26 年 4 月 1 日付で当院に採用になりました、栄養士の相原と申します。以前は千葉の国立国際医療研究センター国府台病院に勤務しておりました。

噂に聞く『甲府の夏の暑さ』に負けないよう衛生管理に努めながら、皆さんに喜んでいただけるような食事を提供するため精一杯頑張りたいと思いますので、よろしくお願ひします。



**薬剤師**  
**小野 将成**  
(おの まさなり)

平成 26 年 4 月 1 日付で当院に採用となりました、薬剤師の小野将成と申します。

初めての土地、初めての職場、初めての仕事と初めてだらけで不慣れな点も多いと思われそうですが、薬剤師として早く病院や患者さんのお役に立てるように努力していきたいと思っております。今後とも、どうぞよろしくお願ひ致します。



**契約係**  
**前原 健哉**  
(まえばら けんや)

平成 26 年 4 月 1 日付で、当院に採用となりました、契約係の前原と申します。地元、山梨での採用が決まり慣れ住んだ場所で仕事ができ、嬉しく思っています。

今は、初めてのことばかりで分からないこともたくさんありますが、上司の方や周りの人たちに教えてもらい 1 日でも早く慣れるよう頑張っているところです。どうぞ宜しくお願ひします。



**診療放射線技師**  
**蓮田 剛士**  
(はすだ たけし)

平成 26 年 6 月 1 日付で当院に採用となりました診療放射線技師の蓮田と申します。職場経験がなく、バイトもしたこともありません。社会に出るのが初めてでまだわからないことだらけで不安もあり、仕事を覚えるまで何かとご迷惑をおかけしますが、少しずつステップアップしてお役に立てるよう頑張っていきますのでどうぞよろしくお願ひします。

# 看護部 だより

## 「3病棟の取り組み」

3病棟看護師長 田之上 久美子

3病棟は整形外科と眼科の混合病棟です。整形外科では平成19年6月に「スポーツ・膝疾患センター」が開設され、スポーツで膝を痛めた方、関節を酷使してしまった方などが多く入院されています。また交通外傷や骨折をされた方など、年齢を問わず幅広い年齢層の方の治療、看護を行っています。

整形外科の治療は手術療法が多く、その殆どが関節鏡視下手術で、鏡視下半月板切除手術、鏡視下靭帯再建手術などが行われています。平成25年度の手術件数は743件で、センター開設後より年々増加しています。膝や靭帯の手術後は、リハビリを行いながら、車椅子→松葉杖→自立歩行となりますが、松葉杖歩行では手術した膝に、日毎だんだん体重をかけていく過程があります。はじめは、まったく体重をかけてはいけないところから始まり、体重の3分の1、体重の2

分の1と荷重をかけていきます。その際、患者さんが正しい荷重を守り松葉杖歩行をしないと、安全に機能が回復できません。そこで、松葉杖に色札を装着し(写真参照)、現在の荷重制限が一目でわかるようにしています。こうすることで、看護師だけでなく、患者さん同士でも荷重制限に対して意識していただけるようになりました。

病棟スタッフは明るさとやさしさをモットーに、チームワークを大切にして患者さんの目線に立った看護をめざして、手術前後の急性期から社会復帰に向けたリハビリ期まで、一貫した看護を提供しています。また、社会復帰に向けて入院中より医師、理学療法士と連携し、退院後の患者さん個々の生活をイメージしながら機能回復でき、安心して退院後の生活が送れるよう援助しています。



松葉杖への色札の装着による荷重制限の表示の取り組み

### 平成26年度一日平均患者数

#### 入院

※7月分及び年間累計は7月末日現在(小数点以下第2位は四捨五入)

種別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
一般	109.9	92.9	94.7	114.3									103.0
重心	125.0	126.0	126.8	125.7									125.9
計	234.9	218.9	221.4	240.0									228.8

#### 外来

※7月分及び年間累計は7月末日現在(小数点以下第2位は四捨五入)

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	累計
	264.3	274.1	268.7	277.8									271.3



# アラカルト

## 「熱中症」



内科系診療部長 渡邊 吉康

今年も暑い夏を迎え、日々健康に留意してお過ごし  
の皆様にとって、最も気になることのひとつが熱中症で  
はないかと思えます。もうだいたいのことはご存知と  
思いますが、簡単に熱中症について、あらましと注意  
点をお話しします。

熱中症とは、暑い環境で生じる障害の総称で、体  
の中と外の“あつさ”によって引き起こされる、様々  
な体の不調であり、専門的には、「暑熱環境下にさらさ  
れる、あるいは運動などによって体の中でたくさんの  
熱を作るような条件下にあった者が発症し、体温を維  
持するための生理的な反応より生じた失調状態から、  
全身の臓器の機能不全に至るまでの、連続的な病態」  
とされています。(熱中症は、読んで字のとおり、「熱  
に中る」という意味をもっています)

人は、生命を維持し生活していくために各種の生  
体反応を営み、そのような代謝や酵素の働きの最適  
な条件である 35～37℃の狭い範囲に体の温度を調  
節している恒温動物です。私たちの体では呼吸、消  
化、吸収、代謝、運動など体の営みによって常に熱  
が産生されますが、同時に、生命活動を維持してい  
くために異常な体温上昇を抑えるための、効率的な  
調節機構も備わっています。

暑い時には、自律神経を介して末梢血管が拡張  
します。そのため皮膚に多くの血液が分布し、外  
気への「熱伝導」による体温低下を図ることができ  
ます。また同様に自律神経の働きで汗をたくさん  
かく（発汗により体内の水分や塩分が出ていきま  
す）ことにより、その蒸発に伴って熱（気化熱）が  
奪われ、体温の低下が図られます。

環境変化（周囲の温度や湿度の上昇や大気  
の対流（風）の変化）に対して、私たちの体が適  
切に対処できなければ、筋肉のこむらがりや失  
神（いわゆる脳貧血：脳への血流が一時的に減少  
する現象）を起こします。そして、熱の産生と熱  
の放散とのバランスが崩れてしまえば、体熱放散  
ができず、著しく体温が上昇し、水分や塩分の喪  
失が起こり、生体失調に至ります。このような一  
連の状態全体が熱中症です。

### ※ 熱中症はどのようにしておこるのか

#### 熱中症を引き起こす条件

環境	からだ	行動
<ul style="list-style-type: none"> <li>・気温が高い</li> <li>・湿度が高い</li> <li>・風が弱い</li> <li>・日差しが強い</li> <li>・閉め切った室内</li> <li>・エアコンがない</li> <li>・急に暑くなった日</li> <li>・熱波の襲来</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、乳幼児、肥満</li> <li>・持病(心臓病、糖尿病、精神疾患、広範囲の皮膚病など)</li> <li>・低栄養状態</li> <li>・脱水状態(下痢、インフルエンザなど)</li> <li>・体調不良</li> <li>・(寝不足、二日酔いなど)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・激しい運動</li> <li>・慣れない運動</li> <li>・長時間の屋外作業</li> <li>・水分補給が困難</li> </ul>

### ※ 熱中症はどのような場所でなりやすいか

高温、多湿、風が弱い、輻射源（熱を発生するもの）  
があるなどの環境では体から外気への熱放散が減少  
し、汗の蒸発も不十分となり、熱中症が発生しやす  
くなります。

熱中症は、夏の強い日射しの下で激しい運動や作  
業をする時だけでなく、身体が暑さに慣れない梅雨  
明けの時期にも起こります。また屋外だけでなく、  
高温多湿の室内で過ごしている時にもみられます

### ※ どのような人がなりやすいか

脱水状態にある人、高齢者、肥満の人、過度の衣  
服を着ている人、普段から運動をしていない人、暑  
さに慣れていない人、病気の人、体調の悪い人。

### ※ 熱中症の重症度・緊急度

熱中症はⅠ度、Ⅱ度、Ⅲ度に分類されます。また症  
状から熱失神・熱痙攣、熱疲労、熱射病に分類され  
ます。

#### 熱中症の症状と重症度分類

分類	症状	症状からみた診断
Ⅰ度 軽症度	<b>四肢や腹筋などに痛みをともなった痙攣</b> (腹痛がみられることもある) ○多量の発汗の中、水(塩分などの電解質が入っていない)のみを補給した場合に、起こりやすくとされている。 ○全身の痙攣はこの段階ではみられない。 <b>失神(数秒間程度なもの)</b> ○失神の他に、脈拍が速く弱い状態になる、呼吸回数が増加、顔色が悪くなる、唇がしびれる、めまい、などが見られることがある。 ○運動をやめた直後に起こることが多いとされている。 ○運動中にあった筋肉によるポンプ作用が運動を急に止めると、止まってしまうことにより、一時的に脳への血流が減ること、また、長時間、あつい中での活動のため、末梢血管が広がり、相対的に全身への血液量が減少を起こすことによる。	熱ストレス (総称) 熱けいれん  熱失神
Ⅱ度 中等度	<b>めまい感、疲労感、虚脱感、頭重感(頭痛)、失神、吐き気、嘔吐などのいくつかの症状が重なり合って起こる</b> ○血圧の低下、脈脈(脈の速い状態)、皮膚の蒼白、多量の発汗などのショック症状が見られる。 ○脱水と塩分などの電解質が失われて、末梢の循環が悪くなり、極度の脱力状態となる。 ○放置あるいは誤った判断を行えば重症化し、Ⅲ度へ移行する危険性がある。	熱疲労 (熱ひらい)
Ⅲ度 重症度	<b>Ⅱ度の症状に加え、意識障害、おかしい言動や行動、過呼吸、重篤なショック症状などが起こる</b> ○自己温度調節機能の破綻による中枢神経系を含めた全身の多臓器障害。 ○重篤で、体内の血液が凝固し、脳、肺、肝臓、腎臓などの全身の臓器の障害を生じる多臓器不全となり、死亡に至る危険性が高い。	熱射病

### ※ 熱中症になったときには

熱中症にはさまざまな症状があります。めまいやふ  
らつきなど熱中症の初期症状に気付いたらすぐ休  
むべきですが、もともと体調が悪いために頭痛や  
倦怠感を感じている方は、熱中症になっ  
ていても気付かないことがあります。また熱で意  
識がもうろうとしてきて、自分の状態を判断  
できないまま急に意識を失う場合も  
あります。

万が一熱中症が起きてしまった時には、適切  
に応急処置をする必要がありますが、以下の点  
を観察しひとつでも当てはまれば、すぐ医療機  
関に連れて行きましょう。

- ・本人の意識がはっきりしていない
- ・自分で水分や塩分（ナトリウム）が摂取できない
- ・症状がよくならない

### 熱中症の対処法

#### ※ 予防には

外出時には、帽子や日傘を忘れずに、炎天下での長時間の活動は避け、日陰を利用しましょう。また、室内で過ごすときにも、風通しを良好に保ったり、エアコンや扇風機を使用したりして室温と湿度を調整するように注意して過ごしましょう。いずれの環境下でも、こまめな水分補給や必要な塩分の補給を心がけましょう。

#### ※ 異常の発生 熱中症を疑ったとき

- ・涼しい場所へ移動：風通しのよい日陰、クーラーの効いている室内へ。
- ・衣服をゆるめ、身体を冷やす：熱を身体の外に逃がします。
- ・症状から状態を判断し、以下の適切な対策をとりましょう。



#### ※ 熱痙攣：筋肉痛、手足がつる、筋肉が痙攣する

生理食塩水（0.9%の食塩水；1 lの水に9gの食塩水）を補給すれば通常は回復します。

#### ※ 熱失神、熱疲労：めまい、全身倦怠感、悪心・嘔吐、頭痛

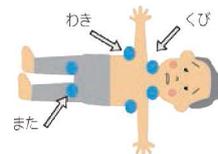
涼しい場所に運び、衣服をゆるめて寝かせ、水分を補給すれば通常は回復します。0.1～0.2%の食塩水

やイオン飲料、経口補水液を補給します。

#### ※ 熱射病：体温が高い、意識障害、呼びかけや刺激への反応がにぶい、言動が不自然、ふらつく

死の危険のある緊急事態です。集中治療のできる病院へ一刻も早く運ぶ必要があります。また、いかに早く体温を下げて意識を回復させるかが予後を左右するので、身体を冷やすなど現場での処置が重要です。

熱射病が疑われる場合には、直ちに全身に水をかけたり、濡れタオルを当てたり扇いだりして身体を冷やします。また、首すじ、脇の下、大腿部の付け根などの大きい血管を水やアイスパックで冷やす方法も効果的です。足を高くし、手足を末梢から中心部に向けてマッサージするのも有効です。吐き気やお嘔吐などで水分補給ができない場合には病院に運び、点滴を受ける必要があります。



回復しないときにはすぐに救急車を要請し、病院に搬送します。

#### ※ 回復した場合も、容態が急変することがあるので、念のため病院で診察を受けておきましょう。

近年、増加している熱中症ですが、症状が深刻なときは命に関わることもある重大な疾患です。病態や救急処置など正しい知識があれば熱中症を予防することや、熱中症患者を救うこともできます。熱中症を知り、自分でできる熱中症対策を心がけ、これからの暑い季節も安全に、快適に過ごしましょう。

## 医療安全管理室より

### 「コンフリクト・マネジメント研修」

医療安全管理師長 相原 昭子 ・ 患者サポート相談窓口 市村 友希

6月4日、全職員対象の医療安全と患者サポート相談窓口の主催で研修会を開催しました。講師は医療メディエーター協会 甲信越支部代表であり、松本市立病院 院長の高木洋行先生をお招きし、医療メディエーションについてご講義いただきました。

当日は177名の職員が研修に参加しました。出席した職員からは、『医療メディエーション』ということばをはじめ聞き、メディエーションの必要性や役割について理解できたという反応が多く寄せられました。また研修後のアンケートでは、患者との対話において傾聴と受容の大切なことがわかり、今後の患者さんや家族と関わるなかで大切にしていきたいという気持ちになったと素直なことばが聞かれ、今回の研修を企画してよかったと思っています。

医療現場において、患者さん・ご家族にとって不利益な出来事が生じた時に、とらえ方の違いから患者さん・ご家族と医療者の間にすれ違いが発生し、そのことが大きな溝になってしまうことがあります。医療メディエーションは対話を中心に、患者さん・ご家族と医療者の関係再構築を支援する考え方であり、実施す

る人のことを「医療メディエーター」と言います。

講師の高木先生の病院では院内メディエーターが活躍していて、入院と同時にメディエーターが患者さんのものを訪室するというシステムが出来上がっているとのこと。当院では、院内の職員ではありますが、規定の研修を受けた職員『医療メディエーター』を配置しております。外来受診や入院中の療養に限らず、何か疑問に感じられること、お聞きになりたいことや病院に対する意見などございましたら、ぜひ活用していただければと思います。

当院の医療メディエーターは、1階受付カウンター横、『医療福祉相談室』に配置されております。御用のある場合は直接医療福祉相談室までお越しいただくか、病院スタッフにお声かけください。担当の者が対応させていただきます。



高木洋行先生



講演後の質疑応答の様子



# 重症心身障害病棟「夏まつり」を開催しました



療育指導室 主任児童指導員 石田 光

7月23日に、毎年恒例の重症心身障害病棟「夏まつり」を開催しました。  
今年も多くの方が参加出来るよう、「昼の部」と「夜の部」の二部構成としました。



## <昼の部>

時間：14：00～15：00  
場所：各病棟デイルーム

昼の部は、看護師長による踊り「トリプルAKB（エーケーブー）」、黒田 Dr. バンドの演奏による「阿波踊り」、綿あめやかき氷、ゲームなどの縁日を行いました。

縁日や演奏など、利用者や家族、ボランティア、職員等と一緒に楽しめる空間を演出しました。

## <夜の部>

時間：18：00～19：30  
場所：療育訓練棟、グラウンド

夜の部は、多くのご来賓や地域の方々を迎え盛大に開催しました。

北新小吹奏楽部の演奏や、職員有志による演奏・踊り、全員参加の阿波踊り、花火などを行い、会場の様子は各病棟にライブ中継されました。



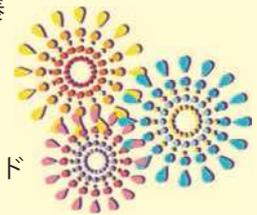
トリプルAKB



エレクトーン演奏

## <夜の部出し物>

1. エレクトーン演奏
2. 北新小吹奏楽部演奏
3. YCB バンド
4. 甲府ポンポコ隊
5. みんなで阿波踊り  
演奏：黒田 Dr. バンド
6. 花火（フィナーレ）



阿波踊り（昼の部）



北新小吹奏楽部



YCB バンド



甲府ポンポコ隊



みんなで阿波踊り



黒田 Dr. バンド



仕掛花火

皆様のご協力により、楽しい夏の一時を過ごす事ができました。  
ご協力ありがとうございました。



打上花火



## 職 場 紹 介



# 「リハビリテーション科」

理学療法士長 朝日 達也

リハビリテーション科は、理学療法士 8 名、作業療法士 4 名、言語聴覚士 2 名、マッサージ師 1 名の構成で、当院入院患者さんと退院後の継続治療を必要とされる方を対象に、総合的なリハビリテーションを提供しております。

現在、リハビリテーション科で治療にあっている患者さんの約 7 割が整形外科疾患であり、スポーツ・膝疾患治療センター開設（2007 年 6 月）以来、膝半月板、前十字・後十字靭帯損傷などのスポーツ外傷を主体に数多く携わり、早期のスポーツ復帰に従事しております。

また、重症心身障害児（者）病棟やNICU、GCUへ入院している方々を対象とした小児疾患へのリハビリ

テーションも積極的に行っております。医師・看護師・療育指導員や保育士・学校教員等と連携し、医療的なニーズの高いお子様も安心して治療・教育が行えるよう活動しております。さらに、脳神経外科・外科・内科など急性期～慢性期の様々な疾患の方々に対して、他職種と連携しながら専門的なリハビリテーションも提供しております。

病院 5 階の甲府市内を一望できる恵まれた環境で、患者さんと共に早期に生活や仕事、スポーツ現場への復帰を目指し、今後もリハビリテーション治療に専念してまいります。

## リハビリテーション科 新任職員ご挨拶

### ◆作業療法主任 古屋 雅子（ふるや まさこ）



4 月より、東京都にある村山医療センターから異動してまいりました作業療法士の古屋雅子と申します。出身地は山梨より遠く離れた広島ですが、昨年、縁あって甲府出身の方と結婚をし、甲府に移り住みました。

今までは、身体障害領域の作業療法に携わらせて頂いておりました。甲府病院では重症心身障害児者の方と関わる機会を新たに頂き、学ぶことが多く慣れないこともありますが、刺激的な毎日を送っております。

日々、出会う患者様やご家族様に寄り添えるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。食べることに目がない私に山梨の耳より情報もお待ちしております！

### ◆理学療法士 吉井 諒（よしい りょう）



4 月に東京医療センターより異動してきました吉井です。

前職場では様々な疾患を対象としたリハビリを行ってききましたが、自分の専門であるスポーツ疾患はあまり多くありませんでした。こちらの病院でスポーツを含む多くのことを学び、少しでも早く皆様のお役にたてるようにしていきたいと思っています。

環境が大きく変わり、慣れないことばかりですが宜しくお願い致します。

### ◆理学療法士 田中 太一（たなか だいち）



4 月よりリハビリテーション科に赴任しました理学療法士の田中と申します。今年 3 月に東京都にある専門学校を卒業したばかりの 1 年目理学療法士です。山梨県に住んだことはなく不安もありましたが、豊かな自然に毎日癒され、気候も穏やかでとても住みやすく感じております。

業務では不十分な面も多々ありますが、士長さんをはじめ先輩職員の手厚い指導により毎日多くのことを勉強させてもらっているため充実しております。少しでも患者様のお役に立てるように日々精進して参りますので宜しくお願い致します。

## 糖尿病教室お食事会のお知らせ（一般公開講座）



<26年度の日程>

**2014年10月25日（土）**

11:00-14:00 4F会議室

テーマ「糖尿病と骨粗鬆症」

**2015年2月11日（祝・水）**

11:00-14:00 4F会議室

テーマ「未定」



前回の食事



甲府病院では年 2 回（10 月と 2 月）、実際にお食事を提供し糖尿病について学んで頂く「お食事会」を開催しています。美味しく食べながら正しい知識を身につけましょう！事前申し込み制ですので早めの申し込みをお願いいたします。お問い合わせは、地域医療連携室までご連絡を下さい。

主催：NHO 甲府病院糖尿病療養指導チーム「てんじん」

# 外来医師担当表

平成 26 年 8 月 1 日現在  
■ …女性医師等

			月	火	水	木	金
一階診察室	消化器内科	診察室	廣 瀬	村 松	鈴木(雄)	村 松	稲 岡
		診察室 10 (共用)					初診のみ 村 松
	消化器外科	診察室 1	鈴木(哲)	浅 川			牧
		診察室 2	浅 川		高橋(ひ)	(乳腺外来) 高橋(ひ)	第1・3・5週 鈴木(哲) 第2・4週 浅川
		化学療法 (五階) 診察室 1 診察室 2		高橋(ひ)	鈴木(哲)		
	内 科	診察室 3	渡 邊	渡 邊	渡 邊	渡 邊	渡 邊
		診察室 4	黒 澤	黒 澤	黒 澤		黒 澤
		診察室 5	川 口	古 屋	古 屋	中 尾	太 田(-)
	呼吸器内科	診察室 4 午前				樋 田	
		診察室 6 午後			細 菅		
	循環器内科	診察室 6	薬 袋	中村(淳)		薬 袋	
	神経内科	診察室 7			太 田(恵)		太 田(恵)
	脳神経外科	診察室 8	長 沼	長 沼	長 沼	長 沼	大学医師
	皮膚科	診察室 9 (共用)		安 藤			
	整形外科	診察室 10 (共用)				整形外科	
整形外科 (スポーツ・膝疾患治療センター)	1	萩 野		装具外来	萩 野	萩 野	
	2		渡 邊	渡 邊	渡 邊		
	3	落 合	落 合		落 合		
	4	千 賀		千 賀		千 賀	
	5	装具外来					
検 査 室	内視鏡	午前(上部)	村 松		村 松	北 橋	
		午後(下部)	村 松		大学医師 渡邊		
	超音波	午前	腹部 検査科	腹部 検査科	心臓 薬袋		腹部 検査科
		午後				心臓 薬袋	
小 児 科	1	内 田	内 田	加 賀	久 富	久 富	
	専門外来 1 (午後・予約のみ)	久富・勝又 (循環器・フォローアップ)	久富・大学医師 (フォローアップ・乳児健診)	神 経 加賀	予 防 接 種	フォローアップ 中村(幸) 代謝 内田	
	専門外来 2 (午後・予約のみ)	神 経 加賀	循環器 勝又			篠原 (フォローアップ・乳児健診)	
	専門外来 3 (午後・予約のみ)	神 経 神谷	神経 中村(幸)	神 経 石井	第 1・3 週 小野(摂食)		
産婦人科	1	滝 澤	雨 宮	菊 嶋	雨 宮	滝 澤	
	2 (予約のみ)	雨 宮	菊 嶋	大学医師	滝 澤	菊 嶋	
	3	妊健 助産外来			妊健 助産外来		
眼 科		予約のみ 地 場	地 場	地 場		地 場	
泌尿器科(予約のみ)		奇数週 大学医師					
耳鼻咽喉科					矢 崎		

●受付時間 初診/午前8時30分～午前11時00分 再診/午前8時20分～午前11時00分(再診で予約を取られている方は予約時間まで)  
 (※水曜日午後呼吸器内科の受付時間は13:00～15:30です(診察13:00～16:00))

※右記のものについて ●小児科 専門外来 ●予防接種(小児科) 毎週木曜日 ●乳がん検診 毎週水・木曜日  
 ては事前の予約が ●乳児健診 毎週火・金曜日 ●人間ドック 毎週水・木曜日  
 必要となります。 ●毎月第4金曜日 糖尿病教室 黒澤医師 ●脳ドック 毎週月・火曜日午後

## 特殊外来ご案内

・「乳腺外来」については、毎週水・木曜日の午前中に高橋医師(女性)が診察します。乳房にしこりなどの異常を感じたら、すぐに受診されることをお勧めします。

・「物忘れ外来」については、脳神経外科で行っています。ご家族が「忘れることが多い」と気づいたら、受診されることをお勧めします。

## 作品募集

「てんじん」に掲載する写真等の作品を募集しています。  
 ★宛先 国立病院機構甲府病院 経営企画係 山田  
 e-mail:yamada-m@nhokoufu.hosp.go.jp

## ◇平成26年度 職員採用案内◇

助産師・看護師・看護助手・薬剤師の募集(パート)は随時行っています。

申し込み方法 \*下記の電話番号に(土日休日以外)直接ご連絡下さい。

連絡先 国立病院機構甲府病院 庶務係長  
 TEL:055-253-6131 FAX:055-251-5579

### 編集後記

まだまだ暑い日が続いていることと思います。今回の「新任・転任のご挨拶」でも書かれていましたが、甲府の夏は格別暑いで知られており、昨年の夏は観測史上5位となる40.7℃を記録しました。

そうなると思いたいの「熱中症」——今回の「アラカルト」では、渡邊先生が熱中症の対策について詳しく解説しています。

是非ご一読いただき、甲府の厳しい残暑を乗り切っていただければ幸いです。(Y)